

障害者スポーツを通じた交流活動

～障害者スポーツの推進と心のバリアフリーを目指して～

千葉県立矢切特別支援学校

電話 047-312-3010

FAX 047-312-3012



研究のポイント

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害者スポーツを通じた交流活動による効果についての実践的研究を行った。本研究では、障害者スポーツを通じた交流による児童生徒の変容、障害者に対する理解啓発、障害者スポーツの推進を通じた効果の検証を行った。

■学校の概要

<http://www.chiba-c.ed.jp/yakiri-sh>

平成27年度開校の知的障害教育を担う特別支援学校である。本校は、千葉県北西部（東葛飾地区）に位置している。旧矢切高等学校の跡施設を活用しており、教室、グラウンド、体育館の施設は広く充実している。在籍する児童生徒数は101名である。

■研究課題

リオ・オリンピック・パラリンピックを契機に、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて心のバリアフリーを推進するには、障害に対する正しい理解が必要とされる。また、本校は開校2年目の特別支援学校であり、様々な活動を通して、地域の方々に本校の教育活動や児童生徒についての理解、地域とのつながりを構築している。

スポーツは、障害、年齢を問わず、体を動かす楽しさ・喜びをもたらし、心身の健全な発達を促し、人々との交流やコミュニケーションを促進するなど、生涯を通じて幸福で豊かな生活を営む基盤となる。

そこで、校内で障害者スポーツに取り組み、障害者スポーツを通じた交流活動を行い、障害者スポーツの推進と障害者に対する理解啓発の効果について実践的研究を行う。

■研究の目的と方法

<目的>

障害者スポーツを通じた交流活動を行い、障害者スポーツの推進と障害者に対する理解啓発の効果を検証する。

- 1 障害者スポーツの楽しさや喜びを味わうことができるように、誰でも参加できるルールや教材教具の工夫・改善を行う。
- 2 障害者スポーツによる交流を通して、児童生徒の人とかかわる力や社会性を育て、地域とのつながりを深め、心のバリアフリーを目指す。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害者スポーツの情報発信を行い、障害者スポーツの普及を推進する。

<方法>

1 障害者スポーツの実践

- (1)教育課程(体育・クラブ活動・特別活動)に位置付けてボッチャに取り組む。
- (2)パラリンピック種目(ボッチャ)について、誰もが取り組むことができるルールや教材教具、かかわる機会などの工夫・改善を行う。

2 地域との交流活動と障害者スポーツの普及

- (1)地域の方々とボッチャを通じた交流を実施

- ① 中学部、高等部：特別養護老人ホームなどでこ
- ② 小学部：やきりスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)、学区の老人会
- (2) 障害者スポーツの普及
 - ① 講演会「やきりスポーツミーティング」：パラリンピック ボッチャ日本代表選手の招聘
 - ② 出前授業：ボッチャのルールやゲームについての講習会
 - ③ 地域の催事に参加：矢切こどもまつり

■ 研究概要

< 成果 >

1 障害者スポーツの実践

- (1) ボッチャは知的障害教育の体育として有効な活動
 - ・ ルールのあるスポーツを学ぶ有効な活動
 - ・ 調整力、コントロール力、集中力などの学習効果
 - 日常生活の中で般化：気持ちのコントロール、動作の力加減

(2) ボッチャの楽しさを知る

- ・ 体育やクラブ活動においてボッチャを積極的に取り組む姿
- ・ ボッチャを地域での余暇活動として考える生徒

2 地域との交流活動と障害者スポーツの普及

(1) 児童生徒が自信を持って取り組む交流活動

- ・ 「共に学ぶ交流」に向けて、児童生徒が自信を持って取り組める活動の準備(ボッチャ)、相手のニーズを把握、地域への積極的な情報発信することが重要
- ・ 体育、道徳などの活動を通して、交流に向けて児童生徒の意識を高めることが重要
- ・ ボッチャを一緒に行う中で、主体的に活動する児童生徒の姿やかかわりを通して、障害者に対する正しい認識を伝えることができた
- ・ 児童生徒の自己有用感、人とかかわる力、社会性の変容
 - 声の大きさ、車いすを押す速さ、握手やハイタッチ、ボールを渡す力加減など相手を意識した行動の変容
- ・ 施設利用者の心理面(記憶の保持、集中力の変化)、身体面(生活動作の変化)の変容、コミュニケーションの活性化

(2) 障害者スポーツの普及

- ① 情報発信の成果→障害者スポーツ、パラリンピックへの関心の高まり
 - ・ ボッチャ出前授業の依頼、地域の催事への参加
 - ・ ボッチャを小学校の授業、施設の余暇活動として活用
- ② パラリンピック日本代表の講演会
 - ・ 児童生徒にとっては、「ボッチャ上手になりたい」「パラリンピック選手に会えて良かった」など夢を持つ大切さを学ぶ機会
 - ・ 外部参加者にとっては、「みんなが楽しめるスポーツ(ボッチャ)を知ることができた」「地域で行いたい」などパラリンピック種目への興味関心につながる機会

< 課題 >

- ・ 小中学校への障害者スポーツの普及、更なる地域に対する心のバリアフリーの推進
- ・ 知的障害者が楽しむことができる競技や活動機会の検討
- ・ 千葉県オリジナル障害者スポーツの開発

関連資料

- ・ 矢切特別支援学校研究成果 <http://www.chiba-c.ed.jp/yakiri-sh>